

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495300301	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	平成26年12月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	宇奈根グループホーム		
所在地	(〒213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根633-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年11月9日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご入居者様お一人おひとりの個性や意向を大切に、職員間でコミュニケーションをとりながら、チームとして安心・安全で穏やかな生活をして頂ける様、支援しております。

また、月に1度のお楽しみ食事会や季節ごとの行事は、準備からご入居者様にも参加していただき、家庭的な雰囲気の中で、できることを続けながら楽しんで頂ける様、工夫しております。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、面会制限をさせて頂いたり、地域との関りが難しかったのですが、この度町内会にも加えて頂きましたので、今後はご家族も巻き込みながら、ご町内の行事等にも参加していただけるようにしていく予定をしております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年12月10日	評価機関 評価決定日	令和4年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR南武線「久地」駅から徒歩12分の閑静な住宅街にあります。建物は3階建て、1階が小規模多機能型居宅介護事業所、2～3階が2ユニットのグループホームです。近隣には梨園、多摩川や高校、ドラッグストア、コンビニエンスストアなどのある住環境です。

<優れている点>

事業所の理念「『あなた』の立場に立ち尊重します」と謳い、高齢者支援に厚い経験豊富な管理者を中心に、経験豊富な職員と若い職員は共に、入居者と家族の立場に立って、明るく、笑顔のある支援に取り組んでいます。散歩の途中にはオーナーの果樹園があり、ももや梨、ぶどう、みかんなどをもぎ取り、それぞれの季節の楽しみとなっています。また、法人や事業所では各種の研修が充実しています。全てのスタッフが正しい知識・技術を身につけ利用者の安心・安全を守ることを目的とした法人のテクニカルマイスター制度で介護技術の向上に努めています。また、福祉専門職の資格取得支援制度があり、人材の育成とスキルアップやサービスの質の向上に取り組んでいます。

<工夫点>

コロナ禍のため内部の書面会議としていますが、利用者の活動、事業所の運営状況などの議事録を運営推進会議の委員と全利用者の家族に送り、情報の共有を図っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ヒューマンライフケア宇奈根グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は共有し実施するよう努めているが、温度差があるように思われます。	開設時に、管理者と職員が相談して作った事業所独自の理念です。職員は常に笑顔で「相手のことを考え、相手の立場に立つ」ことをモットーに理念の実践に努めています。職員はミーティングや朝礼などで確認し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度より町内会にも加入し、イベントを企画して交流の機会を持つようとしているが、コロナウィルス拡大の影響により、現状は実施できていません。日々の交流は散歩の際にご挨拶する程度となっています。	地域の情報は、運営推進会議の委員であり町内会長でもあるオーナーから得ています。コロナ禍は近隣への散歩で地域の人達とふれ合い、交流しています。利用者は、近所の氷川神社への初詣で、甘酒の振る舞いや地域の人達とのふれあいを楽しみにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前認知症サポーター講座を開いたこともありますが、現在はコロナウィルスの影響によりできていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウィルス拡大の影響により、書面でのみの報告となっておりますので、拠点ミーティングにてサービス向上について話し合っています。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しています。委員は、オーナーである町内会長、地域包括支援センター担当、利用者と家族です。コロナ禍においては事業所内部の会議を行い活動や運営状況などを議事録に記載しています。議事録は家族や委員に送り共有を図っています。	コロナ禍であっても、内部の運営推進会議の議事録は、コロナ禍前と同様に行政の窓口に送付、事業所の取り組みを伝え、協力関係を構築されることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括センターへの運営推進会議の報告や高津区役所との介護保険更新や生活保護課等、関係者との連絡を定期的に実施しています。	要介護認定の申請代行、ケースワーカーと困難事例の相談、利用者の依頼など行政との連携を密におこなっています。地域包括支援センターとは、空き室情報などで情報交換をしています。感染症や食中毒などの予防について相談するなど、行政と連携をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1度の身体拘束廃止委員会の開催と定期的な研修の実施、その後全職員への周知等理解を深めながら、身体拘束を必要としないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止に関する指針や身体拘束廃止委員会、研修会などで周知しています。職員が身体拘束の弊害について理解するよう努めています。管理者は、不適切な言葉の事例があれば個別に注意指導をしています。職員は身体拘束、虐待チェック表で定期的に振り返り確認をしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修と不適切なケアを見逃さない様、職員間での話し合いの場を設けると共に、安心カメラの設置により虐待防止に努めています。	虐待の防止については運営規定で謳っています。年2回の研修で虐待の知識とケアの方法について周知しています。職員は「虐待及び拘束に関する自己点検シート」で定期的に振り返り、自己覚知を行い、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者がご家族から相談があった際に本人情報シートの作成等協力、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取っていただき、疑問を尋ねやすい雰囲気を作りながら説明し、ご理解、納得の上でサインしていただくようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に目安箱を設置しています。また、日々の面会時等でご意見やご要望をを伺うようにしています。	コロナ罹患者数の減少に伴い家族の面会は再開しています。毎月発行する「宇奈根通信」で家族とのコミュニケーションを図っています。「通信」では事業所の日頃の活動状況や居室担当による利用者個別の心身の状況などを添えて届けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや定期的な職員アンケートにて聞き取り、反映させています。	ユニット会議や全体会議で職員の意見や要望、提案を聞いています。個人面談の機会も作っています。管理者は日頃から職員が自由に意見や要望、提案が言えるような職場環境を作っています。職員の行事やイベントなどの企画提案は事業所の運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な面談の実施、目標管理や会社独自の資格制度を設けたり、残業時間や有給休暇の取得状況の把握等に努めています。	職員の仕事の役割分担は、明確に決めています。有給休暇の取得の奨励をしています。シフト表作成時には職員の要望や事情、意見を反映しています。介護疲れや気分転換などを癒す休憩室も備えています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	働きながら資格取得ができるよう、資格取得支援制度があり、現場ではシフトの調整等での協力体制があります。	法人や事業所では年間研修計画を作成し実施しています。法人のキャリアアップの資格制度及び介護の専門職資格取得支援制度があり、人材の育成、サービスの質の向上、職員のモチベーションの高揚にも繋がっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在はリモートでの実施となっておりますが、他ホームの職員と合同の研修を実施しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学の段階から聞き取りを実施し、ご入居前には事前の面談を実施して、困りごとや不安の解消に努め、併せてご要望も伺っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に対してもご本人様同様、見学の段階から聞き取りを実施し、ご入居前には事前の面談を実施して、困りごとや不安の解消に努め、併せてご要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族様が必要としている支援と事前の面談時に必要と思われる支援を基に、入居前にスタッフで話し合い、支援を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	決めた支援を固定するのではなく、ご本人様の日頃の言動からご希望を汲み取り、職員間で話し合いながら、都度柔軟に変更しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からのご希望やご要望を把握し、誠実に対応するように努めております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方からの連絡は、必要に応じて間に入りながら、必ずご本人様へおつながりしています。	職員は馴染みの関係継続の大切さを理解しています。電話や手紙の交信の支援も続けています。コロナ禍前は家族の協力で墓参りや一時帰宅、馴染みの美容室などへ出かけています。洋裁や編み物、調理の手伝い、カラオケなどの趣味の継続支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の食席や一緒に行うレクリエーションで、コミュニケーションを取っていただきながら支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご退去された方のご家族様からの連絡にも誠実に対応させて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望を伝えられる方からは直接伺い、伝えられない方からは表情や態度から推察し、修正しながら出来る限りご希望に添えるよう努めております。	アセスメントや日常の会話を通して把握しています。職員と1対1の場の散歩や入浴、夜間の時に把握しています。意思表示の困難な利用者には態度や表情、仕草などのサインで汲み取るようにしています。職員は朝一番の利用者の顔の表情観察を大事にし支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時にモニタリングシートを作成し、入居後にも修正をしながら、職員が把握できるように務めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々コミュニケーションを取りながら、また職員間で情報交換しながら把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月に一度のモニタリングを実施し、修正しながら介護計画を組んでいます。	モニタリングは職員全員で行い、介護計画は6ヶ月ごとに見直しています。利用者の状態把握と課題の達成状況の観察、短期目標が達成した場合には随時見直しをしています。本人の希望する自立目標を検討し、家族の意向を反映して現状に即した介護計画書を策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づいたことや変化等をサービス記録だけではなく、毎日の申し送りや共有ノートを使用し、把握し実践するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	お一人おひとりにあった支援は、ミーティングや申し送りで取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現状では、あまり出来ていませんが、出来る限り地域資源取り入れられるよう努力しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族に往診と訪問看護訪問歯科をお願いしている医療機関と契約をしていただき、必要であれば医療機関からご連絡してご家族のご理解を頂きながら、受診等をしていただいています。	薬剤師同行で内科医は月2回、歯科の提携医は週1回往診しています。専門医の受診は原則家族対応ですが、緊急時は職員が同行します。訪問看護師は週1回で「往診・訪看ノート」で情報を共有、職員は申し送りノートと業務連絡ノートに記載しケアに繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とお变わりのあった際にはその都度連絡をとり、適切な看護や受診が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーをお送りし、日頃の様子を伝えています。また入院中のご様子や退院の見込みなど、こまめに連絡をとり、退院時には看護サマリーも頂いています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応及び見取りケアに関する指針と意思確認書でご契約時に話し合いを行い、ご本人、ご家族の意思も確認しています。	契約時に、「重度化した場合及び看取りに関する指針」を説明し、「意思確認書」を得ています。看取りの実績があり、看取り研修を実施しています。医師が看取り段階を判断し家族に説明しています。職員は、医師・看護師と連携してケアの実践に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを事務所内に掲示し、定期的な訓練も実施しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害計画書と定期的な避難訓練を実施し、共有しています。	年2回利用者と共に消防訓練・避難訓練を行っています。多摩川が近いため上層階避難の実施、非常時風水害災害の研修を行って知識とリスクの理解を確認しています。保存食や災害備蓄品リストを整備し点検管理しています。緊急時連絡表を日々確認しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が意識しながら支援にあたっています。	介護職員ブック「人権・接遇」冊子で倫理・法令遵守の研修会を行っています。職員は人格の尊重とプライバシー保護について理解しています。呼称は苗字に「さん」付けです。入浴、排泄での言葉かけや対応に配慮し、自尊心を損なう事がないように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身で伝えることができない方にも工夫しながら、選んでいただけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いをせず、その方のペースに合わせて支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型や着る服も、選べる方にはご希望を伺い、ご自身で決められない方にも、お好みに合わせるようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々準備や片付け等を出来る方に手伝って頂いています。 朝食にパン食を取り入れたり、毎月お楽しみ食事会にて季節を感じて頂くメニューを取り入れて楽しんで頂いています。	食材は外部業者に委託し、職員が調理をしています。利用者の好みを反映し、月1回は希望する料理を作ったり、海鮮寿司の出前やさしみを購入し、食を楽しんでいます。調理の好きな利用者は包丁も使い、揚げ物、準備、食器ふきなど、できる行動を通じて食を楽しむことへ繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方に合った食形態で適宜提供し、水分も飲みやすい物やお好みに合ったものを提供するようにしていますが、水分量の確保が難しいです。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方にはご自身で、難しい方には介助にて実施し、週1回の訪問歯科にてクリーニングと指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりのリズムを把握し、声掛けや無理のない誘導を行っています。	車椅子利用者以外の方は、自主的にトイレに行き自立排泄を実践しています。介助の必要な人には、利用者の自主性を尊重しつつ間隔が長い場合は排泄記録の排泄パターンを基にそれとなく促し、トイレで排泄できるよう努めています。布パンツやリハビリパンツの状態を維持しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日に2回運動する機会を設けたり、提供する水分にファイバードリンクを取り入れたりしていますが、医療的処置に頼ることが多いです。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	その日の体調に合わせて日程を変更したり、同性介助のご希望に沿ったりはしていますが、基本的に曜日、時間が決まっており、職員都合にあわせて頂く形になっています。	入浴は午前中、週に2回です。入浴中はリラックスして入れるように、また、職員との会話を楽めるように努めています。季節を感じるように、ゆず湯やしょうぶ湯の日、好きな人には入浴剤を入れるなど、寛いで入浴できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息についてはその時の体調やご気分にあわせて自由にして頂いています。昼夜逆転傾向のある方には、日中の活動量を増やしたり、外気浴等で夜間ゆっくり休んで頂ける様工夫して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	申し送りノートを使用し、共有するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や裁縫等その方が得意な事を生かした役割を持って頂くように支援しています。また日々レクリエーションの時間を設け、提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お一人お一人のご希望に合わせてマンツーマンでの外出支援は難しいですが、近所の散歩や買い物等の外出支援は積極的に行っています。コロナウィルスの影響により、最近あまり出来ていなかったもので、再開したいと思っております。	コロナ禍の制限中は遠出を控え、建物の廻りや車の往来がない道路の散歩や、庭の植物の世話などで外気浴が楽しめるよう工夫しています。制限緩和後は近隣の商店への買い物や散歩の支援をしています。町内会から甘酒の招待を受け、氷川神社の初詣に行く支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自身で自由に使っていただくことはありませんが、ご家族から少額のお小遣いをお預かりし、ご本人のご希望に併せて、スタッフが日用品を購入しています。一緒にいらっしゃれる方とは、同行して買い物を頂くこともあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	届いた手紙はご本人にお渡しし、出してほしいとおっしゃる手紙はお出ししています。 かかってきた電話もおつながりするにはしていますが、ご自身で電話をかけていただくことはありません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとにレクリエーションで作成した装飾を飾ったり、汚れた箇所をこまめに清掃しています。	リビングの採光、換気、温度・湿度の調整を丁寧に行い、居心地の良い環境になるように努めています。利用者が作成した季節を感じる創作物や絵などの作品を壁に飾っています。食後は、ソファで新聞を読む人、創作活動、繕い物、洗濯物たたみなど自由に過ごせる環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でお一人になっていただくのは難しいですが、ソファを置いて自由にくつろいで頂けるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご希望によりご自宅で使っていた物や好みの物をお持ちいただいたり、模様替えなどご希望があればお手伝いしています。	備品はクーラー、ベッド、クローゼット、整理ダンス、防災カーテンです。仏壇や馴染みの品、テレビ、写真や書籍を持ち込み、それぞれの好みを生かした清潔感のある居室になるように支援しています。居室担当制で、週に2～3回職員と一緒に掃除をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行の妨げになるものを置かないようにしたり、ご利用者様のADLにあわせて使いやすさを考えた配置にするよう工夫しています。		

事業所名	宇奈根グループホーム
ユニット名	3階

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまにある
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	3, たまに
	<input type="radio"/>	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている
	<input type="radio"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/>	3, あまり増えていない
	<input type="radio"/>	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は共有し実施するよう努めているが、温度差があるように思われます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年度より町内会にも加入し、イベントを企画して交流の機会を持つようとしているが、コロナウィルス拡大の影響により、現状は実施できていません。日々の交流は散歩の際にご挨拶する程度となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	以前認知症サポーター講座を開いたこともありますが、現在はコロナウィルスの影響によりできていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウィルス拡大の影響により、書面でのみの報告となっておりますので、拠点ミーティングにてサービス向上について話し合っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括センターへの運営推進会議の報告や高津区役所との介護保険更新や生活保護課等、関係者との連絡を定期的実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月に1度の身体拘束廃止委員会の開催と定期的な研修の実施、その後全職員への周知等理解を深めながら、身体拘束を必要としないケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修と不適切なケアを見逃さない様、職員間での話し合いの場を設けると共に、安心カメラの設置により虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者がご家族から相談があった際に本人情報シートの作成等協力、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取っていただいて、疑問を尋ねやすい雰囲気を作りながら説明し、ご理解、納得の上でサインしていただくようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に目安箱を設置しています。また、日々の面会時等でご意見やご要望をを伺うようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや定期的な職員アンケートにて聞き取り、反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な面談の実施、目標管理や会社独自の資格制度を設けたり、残業時間や有給休暇の取得状況の把握等に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	働きながら資格取得ができるよう、資格取得支援制度があり、現場ではシフトの調整等での協力体制があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在はリモートでの実施となっておりますが、他ホームの職員と合同の研修を実施しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学の段階から聞き取りを実施し、ご入居前には事前の面談を実施して、困りごとや不安の解消に努め、併せてご要望も伺っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族に対してもご本人様同様、見学の段階から聞き取りを実施し、ご入居前には事前の面談を実施して、困りごとや不安の解消に努め、併せてご要望も伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族様が必要としている支援と事前の面談時に必要と思われる支援を基に、入居前にスタッフで話し合い、支援を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	決めた支援を固定するのではなく、ご本人様の日頃の言動からご希望を汲み取り、職員間で話し合いながら、都度柔軟に変更しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からのご希望やご要望を把握し、誠実に対応するように努めております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方からの連絡は、必要に応じて間に入りながら、必ずご本人様へおつながりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の食席や一緒に行うレクリエーションで、コミュニケーションを取っていただきながら支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご退去された方のご家族様からの連絡にも誠実に対応させて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望を伝えられる方からは直接伺い、伝えられない方からは表情や態度から推察し、修正しながら出来る限りご希望に添えるよう努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時にモニタリングシートを作成し、入居後にも修正をしながら、職員が把握できるように務めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々コミュニケーションを取りながら、また職員間で情報交換しながら把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月に一度のモニタリングを実施し、修正しながら介護計画を組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づいたことや変化等をサービス記録だけではなく、毎日の申し送りや共有ノートを使用し、把握し実践するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	お一人おひとりにあった支援は、ミーティングや申し送りで取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現状では、あまり出来ていませんが、出来る限り地域資源取り入れられるよう努力しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族に往診と訪問看護訪問歯科をお願いしている医療機関と契約をしていただき、必要であれば医療機関からご連絡してご家族のご理解を頂きながら、受診等をしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とお变わりのあった際にはその都度連絡をとり、適切な看護や受診が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーをお送りし、日頃の様子を伝えています。また入院中のご様子や退院の見込みなど、こまめに連絡をとり、退院時には看護サマリーも頂いています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化対応及び見取りケアに関する指針と意思確認書でご契約時に話し合いを行い、ご本人、ご家族の意思も確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを事務所内に掲示し、定期的な訓練も実施しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害計画書と定期的な避難訓練を実施し、共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が意識しながら支援にあたっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご自身で伝えることができない方にも工夫しながら、選んでいただけるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いをせず、その方のペースに合わせて支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪型や着る服も、選べる方にはご希望を伺い、ご自身で決められない方にも、お好みに合わせるようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々準備や片付け等を出来る方に手伝って頂いています。 朝食にパン食を取り入れたり、毎月お楽しみ食事会にて季節を感じて頂くメニューを取り入れて楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方に合った食形態で適宜提供し、水分も飲みやすい物やお好みに合ったものを提供するようにしていますが、水分量の確保が難しいです。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方にはご自身で、難しい方には介助にて実施し、週1回の訪問歯科にてクリーニングと指導を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりのリズムを把握し、声掛けや無理のない誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日に2回運動する機会を設けたり、提供する水分にファイバードリンクを取り入れたりしていますが、医療的処置に頼ることが多いです。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	その日の体調に合わせて日程を変更したり、同性介助のご希望に沿ったりはしていますが、基本的に曜日、時間が決まっており、職員都合にあわせて頂く形になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息についてはその時の体調やご気分にあわせて自由にして頂いています。昼夜逆転傾向のある方には、日中の活動量を増やしたり、外気浴等で夜間ゆっくり休んで頂ける様工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	申し送りノートを使用し、共有するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や裁縫等その方が得意な事を生かした役割を持って頂くように支援しています。また日々レクリエーションの時間を設け、提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お一人お一人のご希望に合わせてマンツーマンでの外出支援は難しいですが、近所の散歩や買い物等の外出支援は積極的に行っています。コロナウィルスの影響により、最近あまり出来ていなかったため、再開したいと思っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自身で自由に使っていただくことはありませんが、ご家族から少額のお小遣いをお預かりし、ご本人のご希望に併せて、スタッフが日用品を購入しています。一緒にいらっしゃれる方は、同行して買い物をして頂くこともあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	届いた手紙はご本人にお渡しし、出してほしいとおっしゃる手紙はお出ししています。 かかってきた電話もおつなぎするようにはしていますが、ご自身で電話をかけていただくことはありません。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとにレクリエーションで作成した装飾を飾ったり、汚れた箇所をこまめに清掃しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間でお一人になっていただくのは難しいですが、ソファを置いて自由にくつろいで頂けるようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご希望によりご自宅で使っていた物や好みの物をお持ちいただいたり、模様替えんおご希望があればお手伝いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩行の妨げになるものを置かないようにしたり、ご利用者様のADLにあわせて使いやすさを考えた配置にするよう工夫しています。		

2021年度

事業所名 宇奈根グループホーム

作成日： 2022年 2月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所として地域への発信ができていないため、連携もとれていないといえませんが。	事業所への理解を頂くと共に、地域の一員としての連携がとれるようになる。	町内会の行事へ積極的な参加をしながら、事業所発信のイベントを開催し、地域の方々へ参加いただけるようにする。	12ヶ月
2	19	日常的にコミュニケーションが取れているご家族、スタッフが限定的になってしまっています。	ご家族に共にご本人を支えていると思っただけの関係を築く。	些細な事も逃さずご家族とのコミュニケーションの機会と捉え、連絡を絶やさないようにする。 ご家族からの連絡に、どのスタッフ	6ヶ月
3	1	開設時の理念をそのまま共有しています。	現在のスタッフの思いを反映した理念を基に、支援を実践できるようにする。	拠点ミーティングを利用し、スタッフの意見をまとめる理念を作成する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月